

第9回二戸市埋蔵文化財センター
発掘調査報告会



史跡九戸城跡 石沢館



晴山遺跡



米沢遺跡群



特別史跡大湯環状列石（鹿角市）大湯ストーンサークル館所蔵

◆特別講演

講演 縄文人の祈りについて -大湯環状列石から考えられること-

講師：赤坂 朋美 氏 鹿角市教育委員会大湯ストーンサークル館主任

◆令和4年度調査報告

令和4年度発掘調査の概要 二戸市埋蔵文化財センター 主任 大坪 華子

晴山遺跡・米沢遺跡群 二戸市埋蔵文化財センター 主査 鈴木 裕一郎

史跡九戸城跡 二戸市埋蔵文化財センター 主事 佐藤 由浩

◆令和4年度調査報告（紙上報告）

駒焼場遺跡（第5・6次）

前小路遺跡（第80・81次）

在府小路遺跡（第39次）

◆令和4年度調査出土遺物の展示

日時 令和5年3月4日（土）午後1時30分

会場 二戸市埋蔵文化財センター 会議・研修室

後援 (一社)岩手県文化財愛護協会 NPO法人カシオペア市民情報ネットワーク 九戸城を活かす会 二戸市観光協会

プログラム

13:30-13:35	開 会 ・ あいさつ
13:35-14:35	【講演】 縄文人の祈りについて -大湯環状列石から考えられること- 赤坂 朋美 氏 鹿角市教育委員会大湯ストーンサークル館主任
14:35-14:45	休 憩 （※出土遺物展示をご覧ください。）
14:45-14:55	【令和4年度調査報告】 令和4年度発掘調査の概要 二戸市埋蔵文化財センター 主任 大坪 華子
14:55-15:35	【令和4年度調査報告】 晴山遺跡・米沢遺跡群 二戸市埋蔵文化財センター 主査 鈴木 裕一郎
15:35-15:55	【令和4年度調査報告】 史跡九戸城跡 二戸市埋蔵文化財センター 主事 佐藤 由浩
15:55-16:00	質疑応答
16:00	閉 会

講師紹介

赤坂 朋美 氏 鹿角市教育委員会 大湯ストーンサークル館 主任

- 1985年 秋田県鹿角市生まれ
- 2008年 弘前大学 人文学部 人間文化課程 卒業
- 2008年 株式会社わらび座 入社
- 2013年 鹿角市教育委員会 入庁
- 2017年 同 大湯ストーンサークル館勤務 現在に至る

〈略歴〉

弘前大学で考古学を専攻。大学卒業後は秋田県内の企業である株式会社わらび座に入社。その後、鹿角市教育委員会へ入庁。配属先の生涯学習課で社会教育や文化財に係る業務を行い、2017年から大湯ストーンサークル館勤務となる。遺跡と施設の維持管理のほか世界遺産登録推進業務（現在は活用事業）に従事。

縄文人の祈りについて -大湯環状列石から考えられること-

赤坂朋美（鹿角市教育委員会）

1. 鹿角市の位置と環境

- 1) 鹿角市の位置（鹿角市役所：北緯 40 度 12 分 57 秒 東経 140 度 47 分 19 秒）
 - ・秋田県の北東部に位置し、県境を青森県、岩手県と接する。
- 2) 鹿角市の地理的環境
 - ・市の中部に花輪盆地があり、周囲は奥羽山脈をはじめとした山々に囲まれている。
 - ・市内を流れる大小様々な河川は最終的に米代川へ合流し、西へと流れていく。
 - ・北に十和田湖、南に八幡平を有している。
- 3) 先史時代の歴史的環境
 - ・遺跡は標高 120～190mの範囲に集中し、奥羽山脈の裾野の扇状地や山の斜面の低い位置に形成された平坦地、河川によって形成された舌状台地に分布している。
 - ・鹿角市内では 442 ヶ所の遺跡が確認されており、半数が縄文時代の遺跡となっている。

2. 大湯環状列石について

遺跡の概略

- ・大湯環状列石は鹿角市十和田大湯にある万座環状列石・野中堂環状列石を主体とする遺跡。
- ・発見は 1931（昭和 6）年、発掘調査等を経て 1956（昭和 31）年、特別史跡に指定。
- ・環状列石周辺の遺構の存在が明らかとなったのは 1970 年代以降。その後の発掘調査と追加指定により、現在の指定面積は約 250,000 m²。
- ・最大の特徴は、二つの環状列石の規模や形状が似ていること。
- ・発掘調査により、それぞれの環状列石を中心とし同心円状に掘立柱建物、土坑、フラスコ状土坑が分布すること、環状列石以外の様々な配石遺構が存在することなどが明らかとなっている。

3. 大湯環状列石の検出遺構

- 1) 環状列石と掘立柱建物
 - ・環状列石は「外帯」「内帯」と呼ばれる二重の円で形成され、外側の円に出入口のような石列が複数配置される。石列の先には対応関係のある配石遺構群が設けられている。
 - ・外帯・内帯の中には、石で丸や四角を形作る配石遺構があり、それぞれの環状列石に「日時計状組石」が配置されている。
 - ・環状列石の周囲を囲む掘立柱建物は決まった場所に建て替えられている。
- 2) 一本木後口配石遺構群
 - ・野中堂環状列石の 250m 北東側に位置し、a・b の 2 群に分かれる。
 - ・a 群の発掘調査の結果、個別の配石遺構下には土坑があるという関係性が明らかとなった。これによって、両環状列石内の個別の配石遺構については配石墓であると考えられている。

3) 環状配石遺構（群）

- ・細長い石を直径 5mほどの円形に並べ、一部に四角形の張り出し状の施設を持つ遺構。円の内部に地床炉を持つものや、4本の柱を持つものなどがある。
- ・二つの環状列石よりも後の時期に形成され、万座環状列石の北西側に集中している。

4) 遺構から考えられる祈り

4. 大湯環状列石の出土遺物について

1) 遺物の分布状況から見える遺構との関係性

- ・両環状列石の周囲と環状配石遺構群の周辺に「遺物集中域」を確認。
- ・環状列石内部及び、一本木後口配石遺構群周辺の遺物分布は希薄である。

2) 多種多様な遺物が出土。

3) 遺物から考えられる祈り

5. 鹿角地域の配石遺構を持つ遺跡について

1) 天戸森（てんともり）遺跡（鹿角市花輪字陳場 中期中葉～末葉）

- ・竪穴建物 140 棟、土坑 108 基、配石遺構 21 基、多量の遺物が出土。配石遺構は弧状を呈するように配置され、配石墓と考えられている。

2) 高屋館（鹿角市花輪字館ノ沢、太田谷地、野月 ※環状列石は後期前葉）

- ・大湯環状列石と同時期の環状列石。掘立柱建物の内側に配石遺構と土坑が確認されたことから、墓域と考えられている。

3) 小坂町環状列石墳墓（鹿角郡小坂町小坂鉦山字杉沢 後期前葉～中葉）

- ・5基の配石遺構が並び、内1基が日時計状に組み立てられている。配石遺構下からは土坑は確認されていない。

4) 下内野Ⅲ遺跡（鹿角市十和田大湯字下内野 後期）

- ・大湯環状列石と同様の環状配石遺構が出土。周辺には川原石が積み上げられた場所も確認されている。

5) 玉内遺跡（鹿角市十和田八幡平字玉内 ※配石遺構の時期は晩期前葉）

- ・配石墓 4 基と土坑墓 11 基、土器棺墓 7 基、後期末葉から晩期前葉にかけての土器が出土。

年	出来事
昭和6(1931)年	4月 耕地整理の際に環状列石の一部が発見される
昭和8(1933)年	3月 諏訪富多・浅井小魚・高木新助らが中心となり大湯郷土研究会を設立 東北帝国大学 喜田定吉が視察・講演を行い「中通遺蹟」の仮称がつけられる
昭和17(1942)年	神代文化研究所の発掘調査…二つの環状列石の全体が現れる
昭和21(1946)年	秋田県・朝日新聞社主催による発掘調査 調査担当者：後藤守一、甲野勇、江坂輝弥ほか
昭和25(1950)年	文化財保護法の制定 秋田県史跡に仮指定 指定面積9,477㎡
昭和26(1951)年	7月～8月 文化財保護委員会(現文化庁)による調査 調査担当者：斎藤忠、八幡一郎、大場磐雄ほか 「史跡」に指定 指定面積…16,182㎡
昭和27(1952)年	8月 文化財保護委員会(現文化庁)による調査
昭和28(1953)年	昭和28年に調査報告書『大湯町環状列石』が刊行 「墳墓説」と「祭祀場説」とが提示される
昭和31(1956)年	7月19日 国の特別史跡に指定 指定名称「大湯町環状列石」指定面積…16,182㎡ 大湯環状列石埋蔵文化財収蔵庫が開館(～平成7)
昭和32(1957)年	大湯町と十和田町の合併により「大湯町環状列石」に名称変更
昭和48～51(1973～1976)年	大湯環状列石周辺緊急分布調査 環状列石の外側にも遺構が存在し、広範囲になることが確認される
昭和53(1978)年	特別史跡大湯環状列石保存管理計画書策定
昭和59～平成20(1984～2008)年	鹿角市教育委員会による環状列石周辺発掘調査
平成2(1990)年	史跡の追加指定 指定面積…236,697.81㎡
平成6(1994)年	史跡の追加指定 指定面積…240,070.81㎡
平成7(1995)年	鹿角市出土文化財管理センターが開館
平成10(1998)年	『特別史跡大湯環状列石環境整備基本設計』策定 環境整備事業を開始(～平成27年)
平成13(2001)年	史跡の追加指定 指定面積…249,833.60㎡
平成14(2002)年	4月 大湯ストーンサークル館開館
平成18(2006)年	文化庁で「世界文化遺産」候補を公募。鹿角市・北秋田市・秋田県が「ストーンサークル」で応募
平成21(2009)年	1月 ユネスコ世界遺産委員会事務局において「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」として世界遺産 暫定一覧表に記載
平成27(2015)年	史跡の追加指定 指定面積：250,060.60㎡ 慶應義塾大学より出土品の移管を受ける
平成29(2017)年	3月 特別史跡大湯環状列石総括報告書刊行
令和元(2019)年	7月文化審議会世界文化遺産部会において「北海道・北東北の縄文遺跡群」が2019年度の世界文化遺産推 薦候補に選定される 12月 閣議において、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の推薦書をユネスコへ提出することが了解される
令和3(2021)年	5月 イコモスより、「記載」が適当との勧告がなされる 7月 第44回世界遺産委員会拡大大会(中国福州市/オンライン開催)において、「Jomon Prehistoric Sites in Northern Japan」の資産名で世界遺産一覧表への記載が決定

表1 大湯環状列石の調査と保存の歴史



図1 大湯環状列石位置図



写真1 大湯環状列石航空写真
上：万座環状列石 下：野中堂環状列

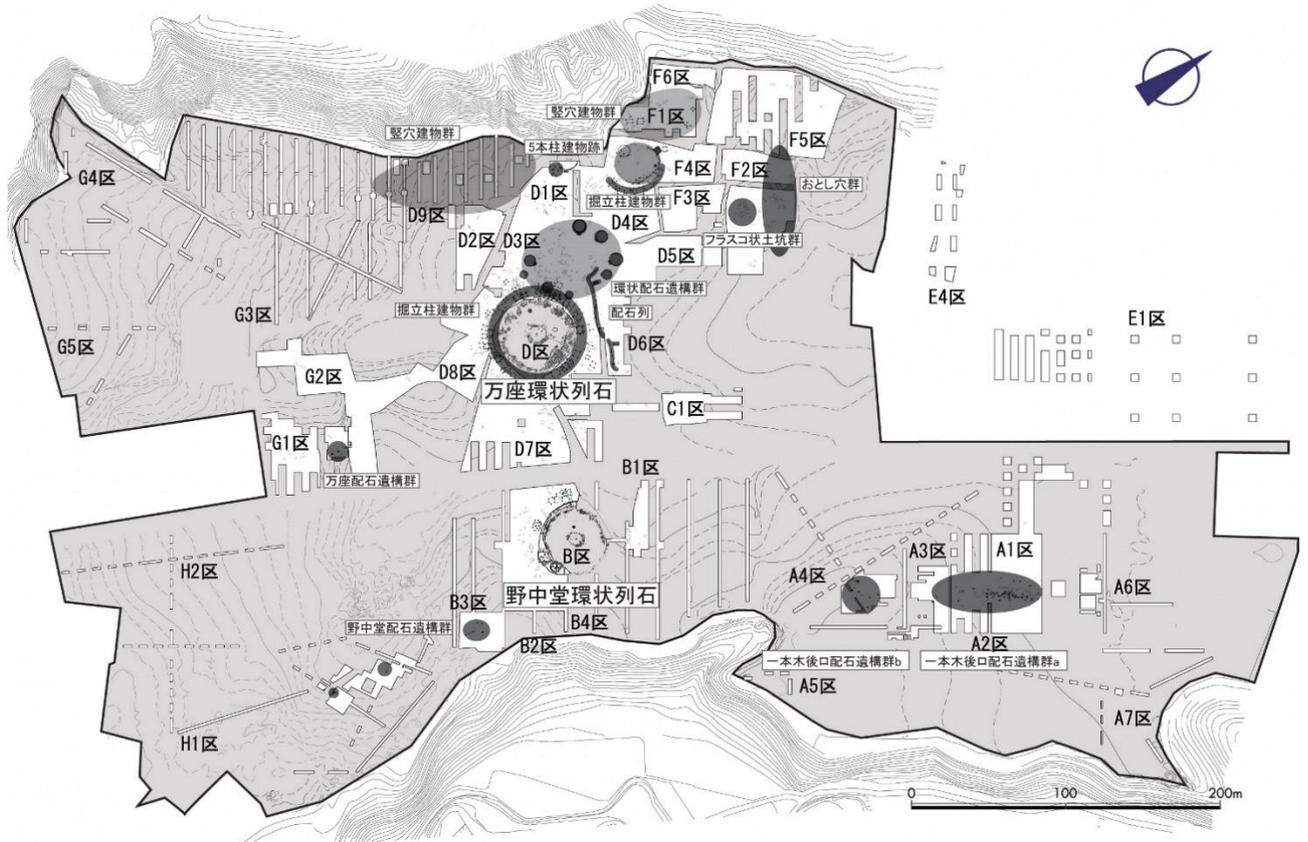


図2 大湯環状列石発掘調査区及び遺構配置図

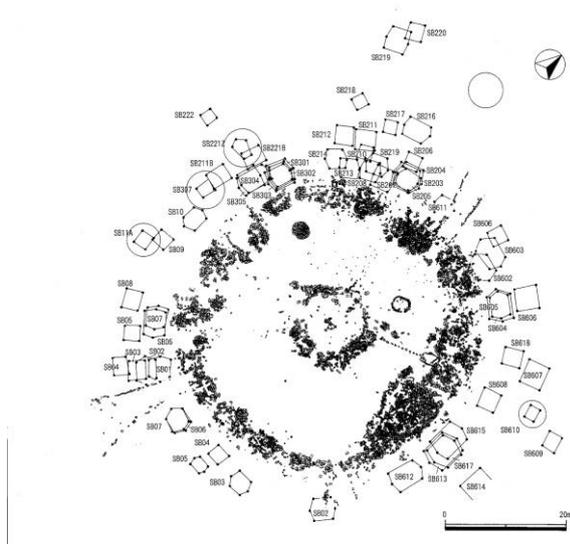


図3 掘立柱建物配置図（万座環状列石）



写真2 一本木後口配石遺構群発掘調査時写真

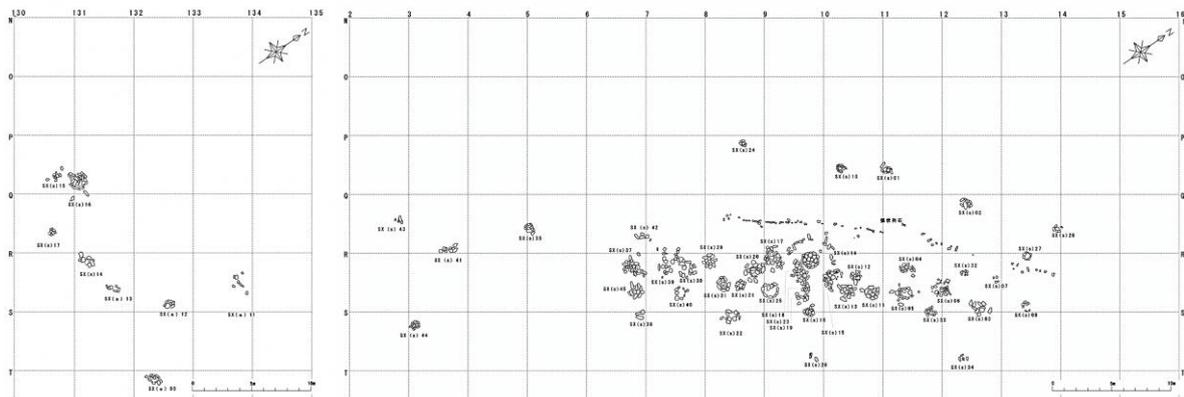
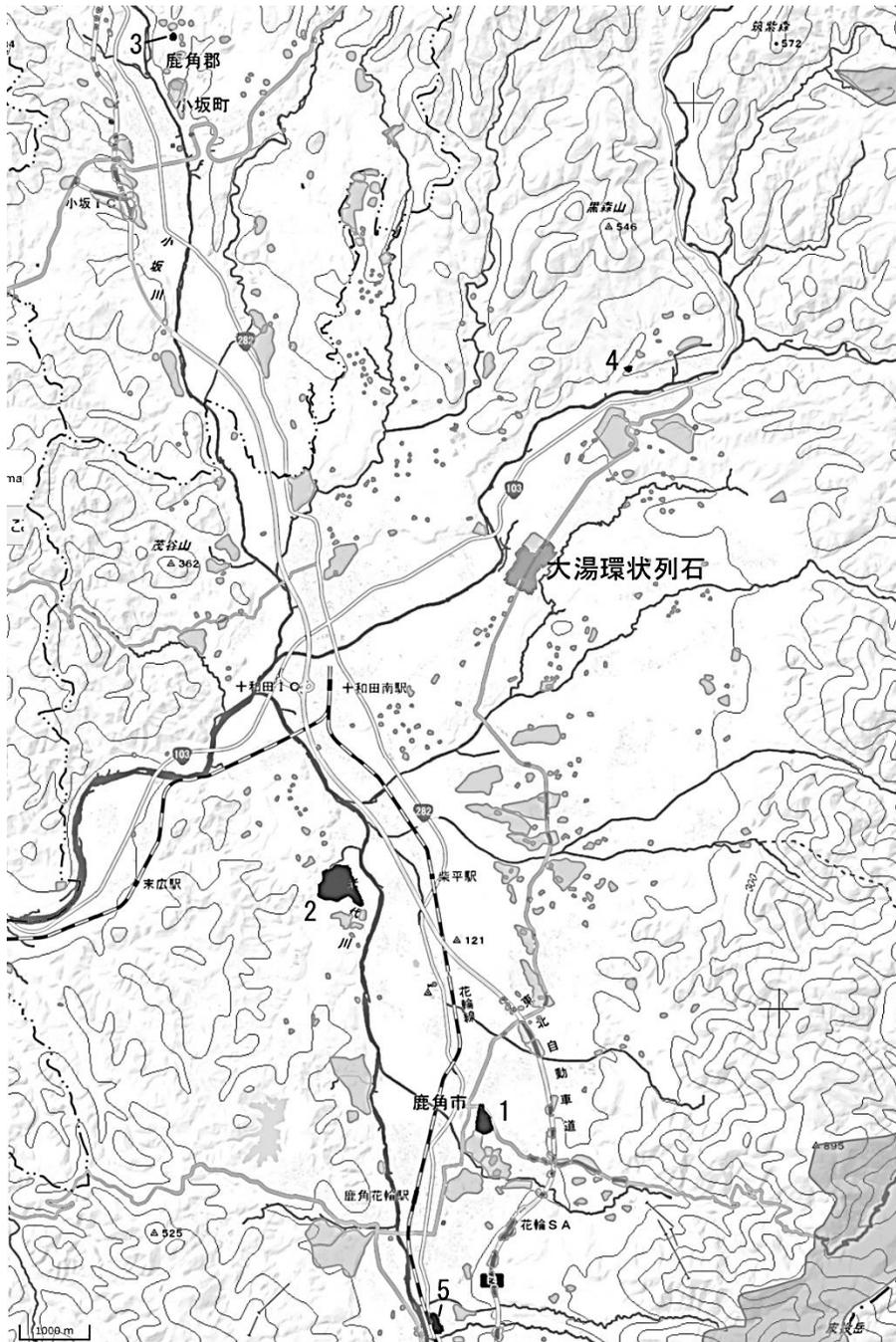


図4 一本木後口配石遺構群 遺構実測図（左：b群 右：a群）



図5 環状配石遺構実測図および配置図



- 1 天戸森遺跡
- 2 高屋館
- 3 小坂町環状列石墳墓
- 4 下内野Ⅲ遺跡
- 5 玉内遺跡

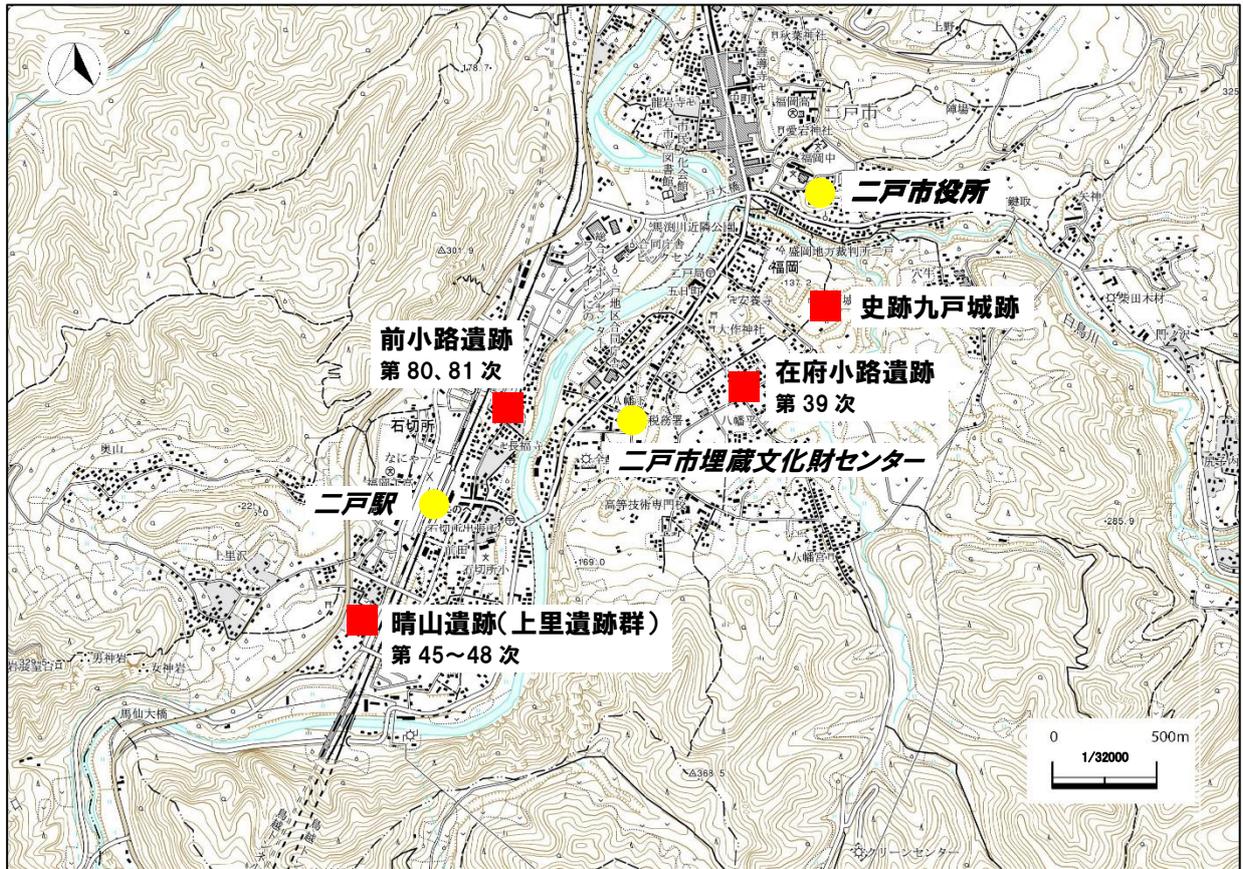
図6 鹿角地域の配石遺構を持つ遺跡

※秋田県遺跡地図情報(<https://common3.pref.akita.lg.jp/heritage-map/map/index.html?id=284&city=7>)に加筆

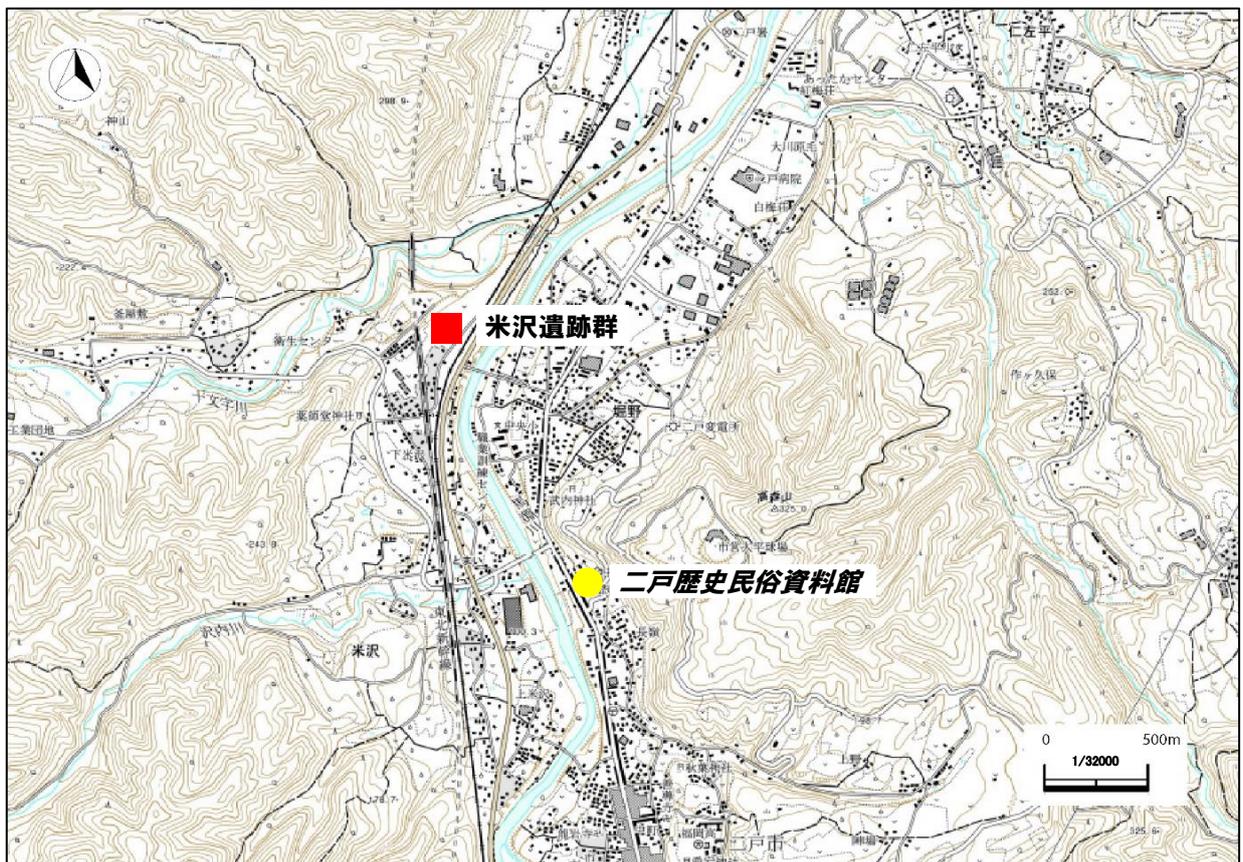
令和4年度調査報告

令和4年度調査遺跡所在地

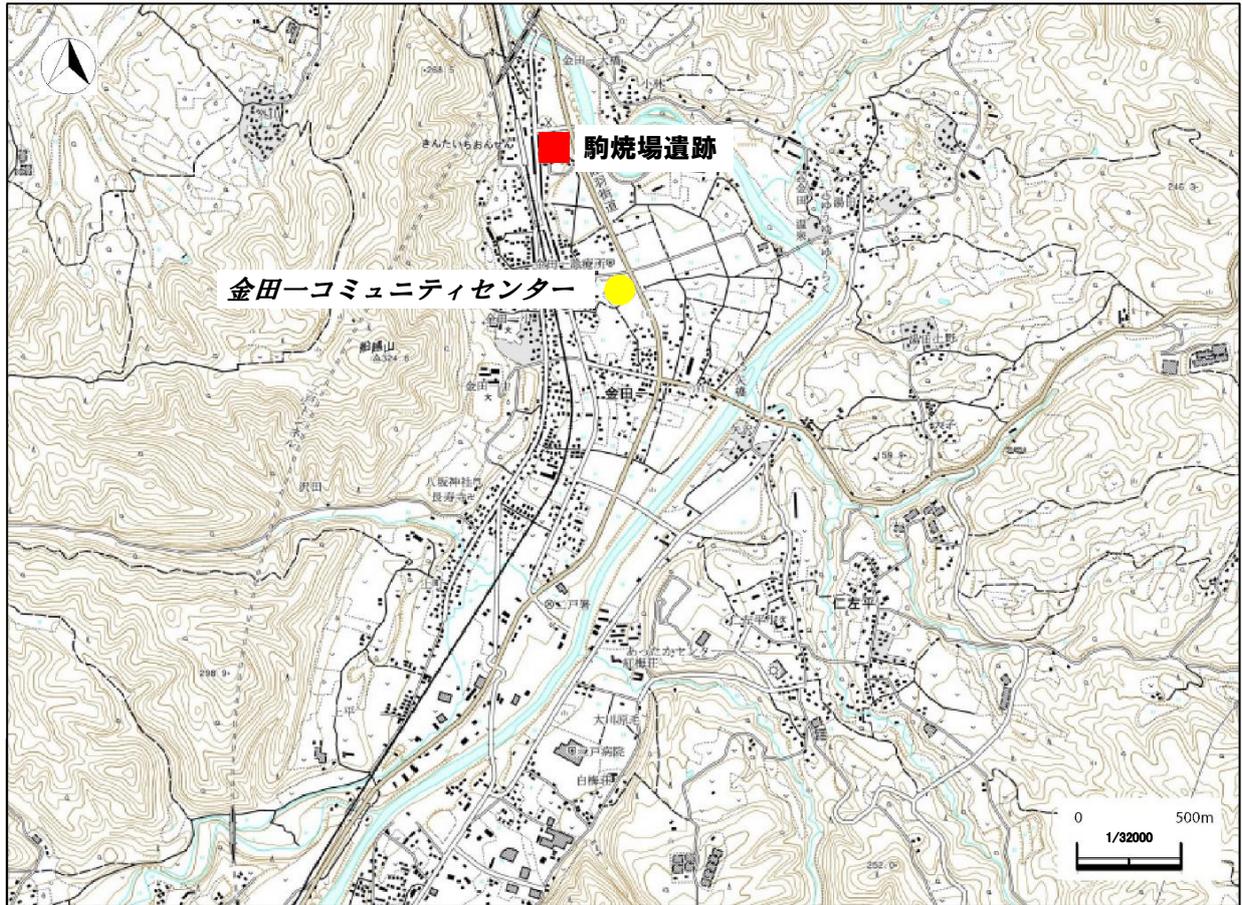
(福岡・石切所地区)



(米沢地区)



(金田一地区)



- 【凡例】**
- ・調査遺跡… ■
 - ・官庁舎等… ●

令和4年度発掘調査の概要

1. 令和4年度の発掘調査について

- 史跡九戸城跡の内容確認調査 1件
- 個人住宅建設に伴う調査 3件
- 民間開発に伴う調査 0件
- 区画整理事業に伴う調査 2件

2. 令和4年度の埋蔵文化財に関する届出（令和5年3月1日現在）

- 照会 民間 120件 公共 3件 → 遺跡に該当 74件（うち史跡に該当 3件）
- 試掘調査 民間 20件 公共 7件 → 埋蔵文化財（遺構・遺物）検出 10件
- 発掘届 民間 55件 公共 7件
- 発掘調査 民間 3件 公共 5件

3. 届出から調査に至るまで

- （1）埋蔵文化財の照会 → 埋蔵文化財該当の回答
- （2）発掘届・試掘調査 → 試掘で埋蔵文化財確認
- （3）協議 → 発掘調査

4. 埋蔵文化財の保護について

開発対象地が遺跡に該当する場合、文化財保護法第93条の規定により工事着手の60日前までに発掘届（埋蔵文化財発掘の届出）を提出する必要があります。その上で、教育委員会から事業者へ開発前に試掘調査実施の協力を基本的に求めることとなります。

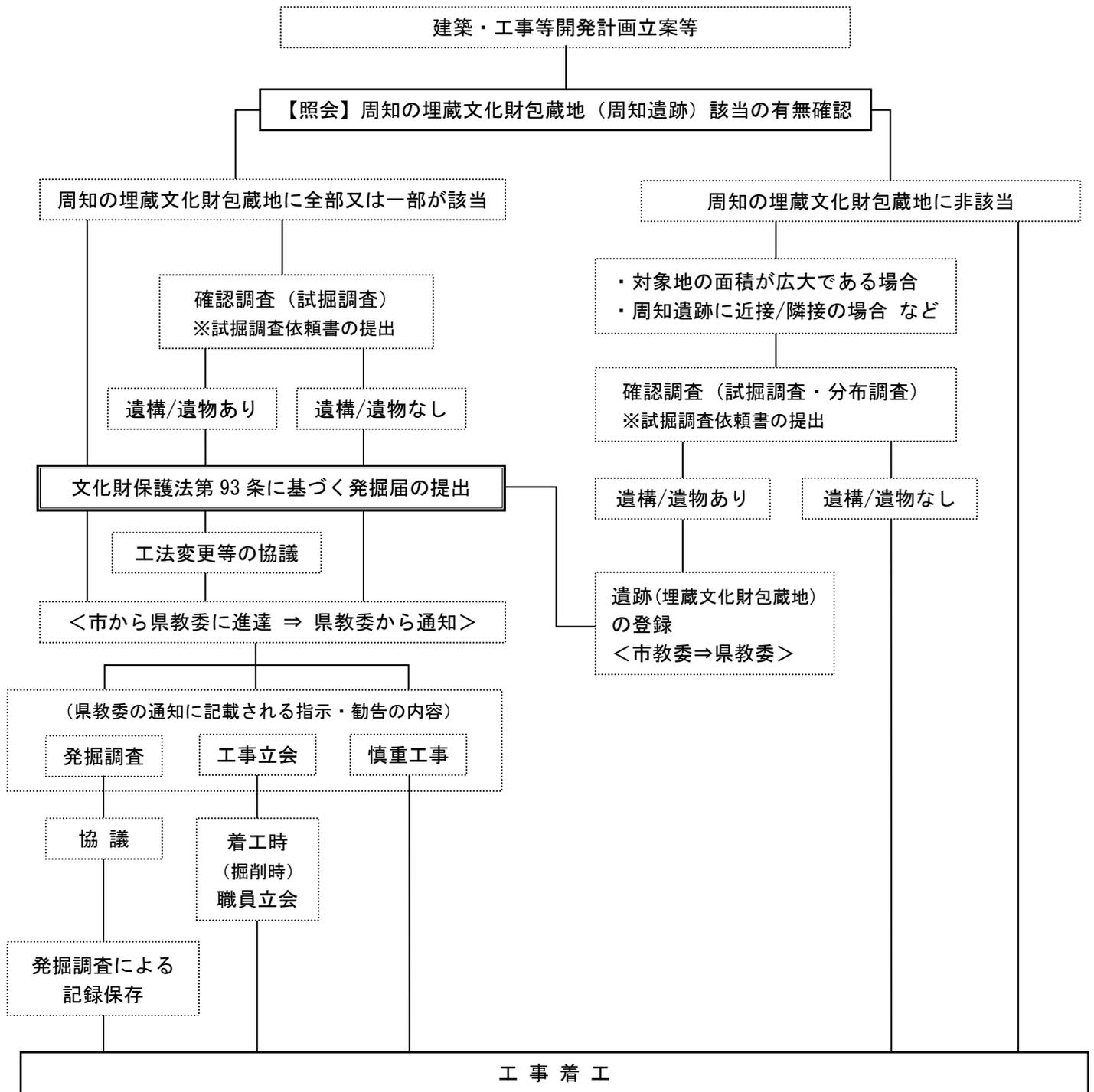
対象地で埋蔵文化財が確認された場合は、事業者に対し保護措置を講じるよう要請します。保護措置の主な方法として、

- ①現状保存
- ②盛土造成等の設計変更
- ③発掘調査等による記録保存

が挙げられます。発掘調査になる場合は事業者との協議・調整が重要となります。

また、発掘調査となった際の費用について、個人住宅建設の場合は補助がありますが、営利企業等の開発である場合は負担していただく場合があります。保護措置の方法や調査時期、負担額については、調査面積や検出される埋蔵文化財の規模で変わるため、その都度協議します。

■二戸市における埋蔵文化財の取り扱いに係るフローチャート■



※遺跡照会及び発掘届などの様式は、二戸市埋蔵文化財センターのホームページからダウンロードできます。

(アドレス) <http://edu.city.ninohe.iwate.jp/~maibun/maibunsyokai.html>

二戸市教育委員会

検索

二戸市教育委員会HPトップページ ⇒ (インデックス/施設) 埋蔵文化財センター

試掘調査依頼書、埋蔵文化財包蔵地発掘承諾書の様式についても、ホームページからダウンロードできます。また、埋蔵文化財センター受付にも様式を用意しています。

晴山遺跡第 45～48 次調査

所在地	二戸市石切所字晴山・諏訪前・大淵地内
調査原因	土地区画整理事業
調査期間	令和4年4月18日～11月18日
調査面積	1,619.8 m ²
主な時代	縄文時代・奈良時代・中世・近世
主な遺構	竪穴住居跡、溝跡(堀跡)、柱穴、自然流路
主な遺物	土師器、縄文土器、陶磁器、石製品、金属製品、銭貨、獣骨

①遺跡の説明

晴山遺跡は上里遺跡群の一部で、西側に名勝馬仙峡の男神岩、女神岩を望み、北流する馬淵川が大きく蛇行する地点の北岸の河岸段丘上に位置しています。これまでの調査では、縄文時代や古代の竪穴住居跡、中世の溝跡(堀跡)などが確認されており、長い期間集落として使われていたことが分かっています。

②調査の内容と結果

・第45次

遺跡の北端に位置しており、末期古墳や中世の居館跡が確認されている諏訪前遺跡が北側に隣接しています。

調査の結果、薬研^{やげん}の溝跡(堀跡)が1条確認されました。幅は2.2m、深さは最大1.5mで、埋土内からは馬の頭骨が出土しました。確認された場所が現在の「諏訪前」「晴山」の地境であり、諏訪前遺跡では同様の溝跡が確認されていることから、13世紀代の区画溝と考えられます。



第45次溝(堀)跡(南東から)



第46次溝(堀)跡(東から)

・第46次

遺跡の西側に位置しています。過年度に実施した隣接地の調査では、東西方向に位置する溝跡(堀跡)が確認されていました。

調査の結果、奈良時代の竪穴住居跡1棟と中世の溝跡(堀跡)1条を確認しました。竪穴住居跡は調査区の北側に位置しており、大きく削平されていましたが、カマドの焼土や土師器片が出土しました。溝跡は幅が3.4m、深さが最大1.65mで、第45次の溝跡と同様の薬研の溝跡で、馬の頭骨が出土しました。また、調査区内で縄文土器や焼土が出土していることから、調査区周辺では、縄文時代の遺構があったことが想定されます。

・第47・48次

遺跡の北側に位置しています。過年度に実施した隣接地の調査では、東西方向に蛇行する自然流路が確認され、流路内から多量の縄文土器が出土しています。

調査の結果、過年度の調査区から続く自然流路が確認され、流路内から縄文時代中期を中心とした縄文土器が多量に出土しました。晴山遺跡の西側には、縄文時代前～中期の上里遺跡があることから、上里遺跡の縄文土器が自然流路によって流れ込んだと考えられます。また、調査区内では近世以降の柱穴が複数確認されています。



第46次 竪穴住居跡 (南東から)



第46次調査風景



第47次調査区全景 (南西から)



第48次調査区全景 (西から)

米沢遺跡群（下平長瀬遺跡）

所在地	二戸市米沢字下平・長瀬地内
調査原因	市道改良工事
調査期間	令和4年9月21日～11月16日
調査面積	153.3 m ² （T2・T12合計）
主な時代	奈良時代（8世紀中葉）
主な遺構	竪穴住居跡、土坑
主な遺物	土師器、石製品、鉄製品、土製品、縄文土器

①遺跡の説明

米沢遺跡群は、IGR斗米駅から南側に広がる遺跡です。国道4号線の建設工事に伴う発掘調査（長瀬C・D遺跡）の際に、多くの古代の竪穴住居跡とともに縄文時代の竪穴住居跡、中世の竪穴遺構が確認されています。隣接した下村遺跡では縄文時代中期末～後期初頭の環状列石が出土し、その一部が大型店舗の隣接地に移築・保存されています。

②調査の内容と結果

対象地は古代の竪穴住居跡が検出される可能性があったため、工事に先立ち試掘調査を行いました。その結果、北側のT2地点で白色火山灰が含まれた方形の遺構と土師器片が、南側のT12地点では円形の白色火山灰が含まれた遺構がそれぞれ検出されました。そのためこの2地点で発掘調査が行われました。なお発掘調査の対象地が市道で完全に通行止めにする事ができないため、各調査区を複数に分けて調査を進めました。

調査の結果、T2地点で古代の竪穴住居跡、T12地点で時期不明の土坑が確認されました。竪穴住居跡は北東側の半分が調査区外のため正確な大きさはわかりませんが、一辺が7.5mです。埋土の上層には915年に十和田湖が噴火した際の噴出物である十和田a火山灰が堆積しており、その下からは土師器片が多く出土しました。また、遺物とともに、住居の部材と思われる炭化材が出土しており、何かしらの理由で焼けた「焼失住居」であることがわかります。



T2 調査区全景（南から）



T12 調査区全景（南から）

カマドは北西壁に造りつけられています。煙道は地山を掘削した後、両壁と天井にやわらかく加工しやすい凝灰岩を置き、周囲を白色粘土で固めてありました。残存状況は極めてよく、当時のカマドの形態がよくわかる状態です。

遺物は土師器が多く出土し、床面では甕と坏が完形で出土しました。また、水晶製の管玉や、土製の勾玉も出土しています。竪穴住居跡の時期は、遺物の特徴から奈良時代である8世紀中葉と考えられます。

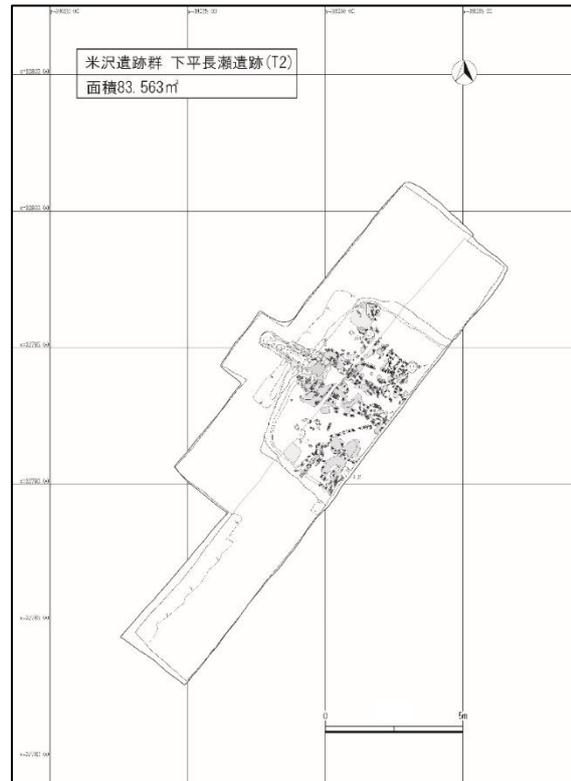
T12地点で確認された土坑は、形が不成形で、白色火山灰が含まれていたものの、時期は不明です。



竪穴住居跡カマド検出状況（東から）



竪穴住居跡カマド完掘状況（東から）



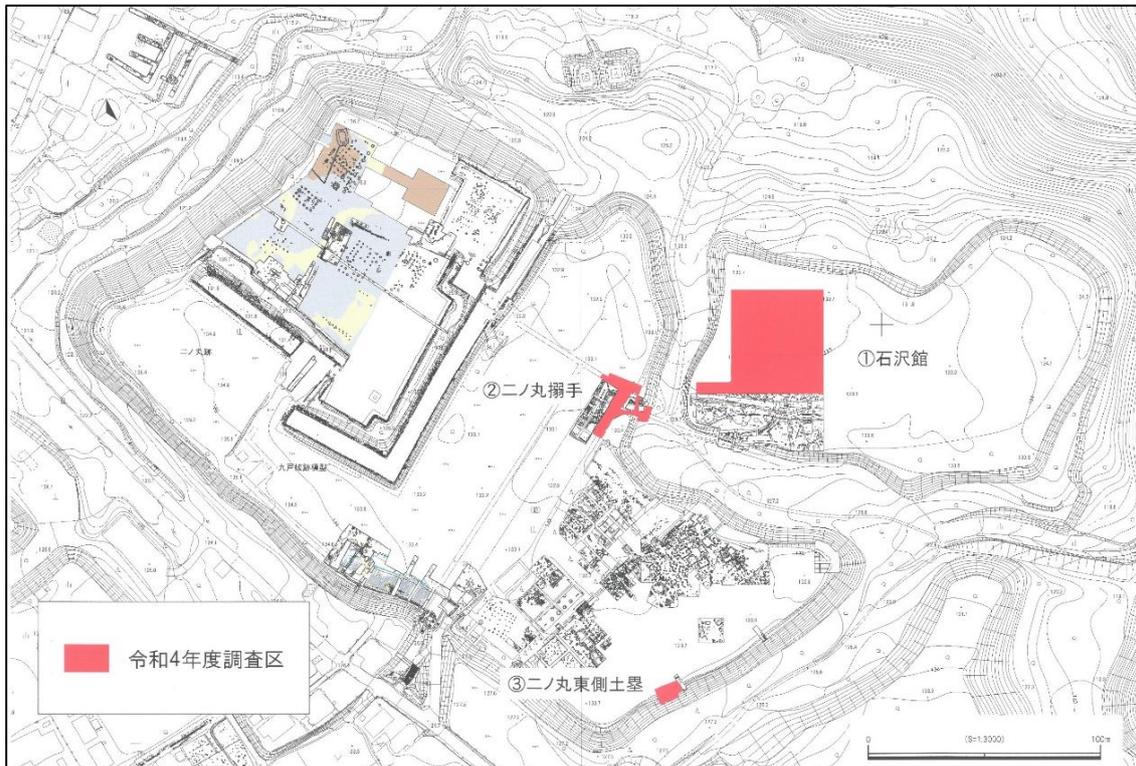
T2調査区平面図

史跡九戸城跡

所在地	二戸市福岡字城ノ内地内
調査原因	史跡整備に伴う内容確認調査
調査期間	令和4年5月2日～11月29日
調査面積	石沢館：1,875.00 m ² 二ノ丸搦手：239.69 m ² 二ノ丸東側土塁：73.95 m ²
主な時代	中世・近世
主な遺構	石沢館：焼土、竪穴状遺構、柱穴、土坑 二ノ丸搦手：溝跡、堀跡
主な遺物	石沢館：陶磁器、埴埜、銭貨、土師器、縄文土器 二ノ丸搦手：陶磁器、溶解物 二ノ丸東側土塁：陶磁器

① 遺跡の説明

史跡九戸城跡は、九戸城(九戸氏の時代)と福岡城(南部氏の時代)の2つの時期に分けられます。現在、目にしている九戸城跡は、九戸城落城後に上方軍によって、北東北で最初の石垣をもつ織豊系城郭として整備され、南部氏が盛岡城に移る寛永13年(1636)まで居城した福岡城の姿です。環境整備事業の一環として平成元年度から発掘調査を実施し、これまで本丸、二ノ丸東側上下段平場、二ノ丸大手、二ノ丸搦手を調査しています。令和3年度からは、九戸城期の遺構配置を明らかにするため、石沢館の発掘調査を実施しています。



令和4年度調査範囲

② 調査の内容と結果

・石沢館

令和4年度発掘調査の目的は、令和3年度に検出された溝跡(SD9)北側の遺構配置を明らかにすることとしました。人力による表土除去後、遺構検出作業、精査によって発掘調査を進めました。

城郭期(九戸城期・福岡城期)の遺構は、竪穴状遺構と推定される方形の掘り込みが6基、土坑が2基、焼土13基、柱穴多数が検出されました。また、城郭期以外の遺構は、縄文時代の住居跡が4基、奈良・平安時代の住居跡が3基検出されています。

調査区中央付近の焼土と周辺の竪穴状遺構検出面から、埴埦や溶解物などが出土しています。埴埦、溶解物が調査区中央の検出面上層に集中することから、鍛冶関係の遺構の存在が推定されます。

遺構の分布は、焼土が調査区中央、竪穴状遺構が西側から北側と偏りがみられます。そのことから、ある程度まとまった範囲で遺構が配置されていたと考えられます。



石沢館調査範囲



竪穴状遺構(4 S I 03)検出状況(西から)



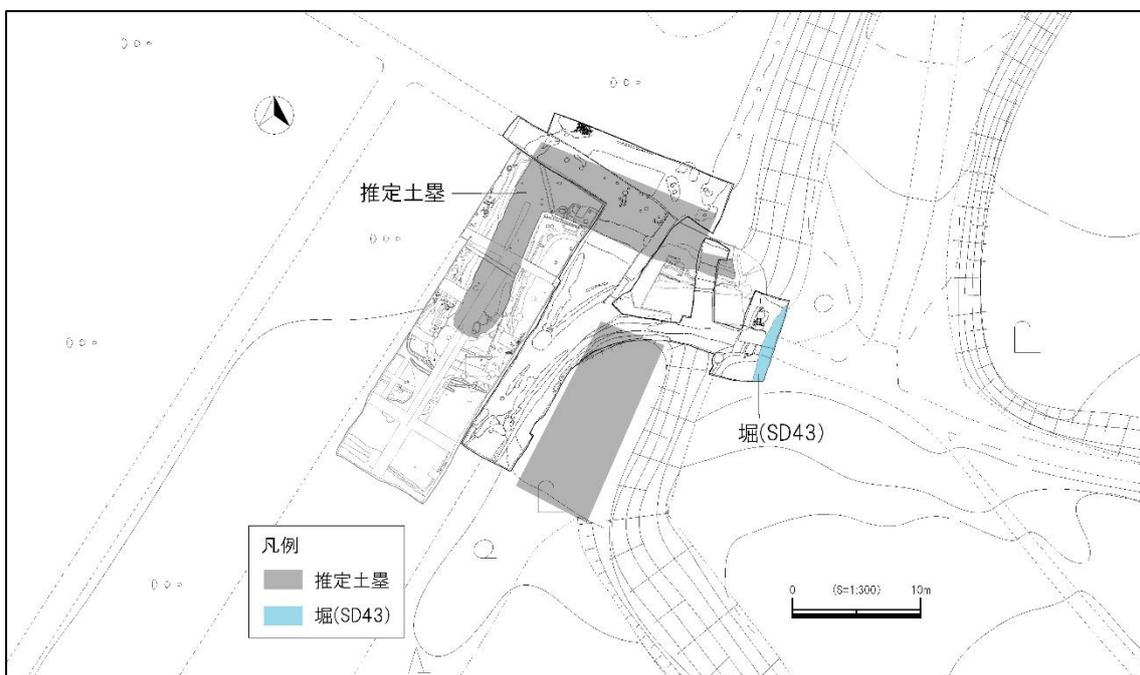
柱穴の検出状況(西から)

・二ノ丸搦手虎口

未調査となっていた虎口内部、堀側の遺構残存状況を確認しました。

搦手虎口は、平成28～29年度の調査結果から規模が東西15.5m、南北13.0mで、地山を掘り込んで構築されたことが判明しています。虎口縁辺部では、虎口を囲む様に西側と北側でL字状に地山面が高く掘り残されており、土塁基部と推定されます。

調査の結果、虎口内部の土塁基部付近と現状の通路面との間で、重機等による現代の削平痕跡と考えられる段差があることが分かり、通路面が約50～100cm低くなっていました。削平されていない土塁基部付近は、福岡城期の虎口面が残ると判断されます。また、現在の堀幅より内側に、堀(SD43)と推定される掘り込みが確認されました。



二ノ丸搦手虎口



二ノ丸搦手虎口 (南から)

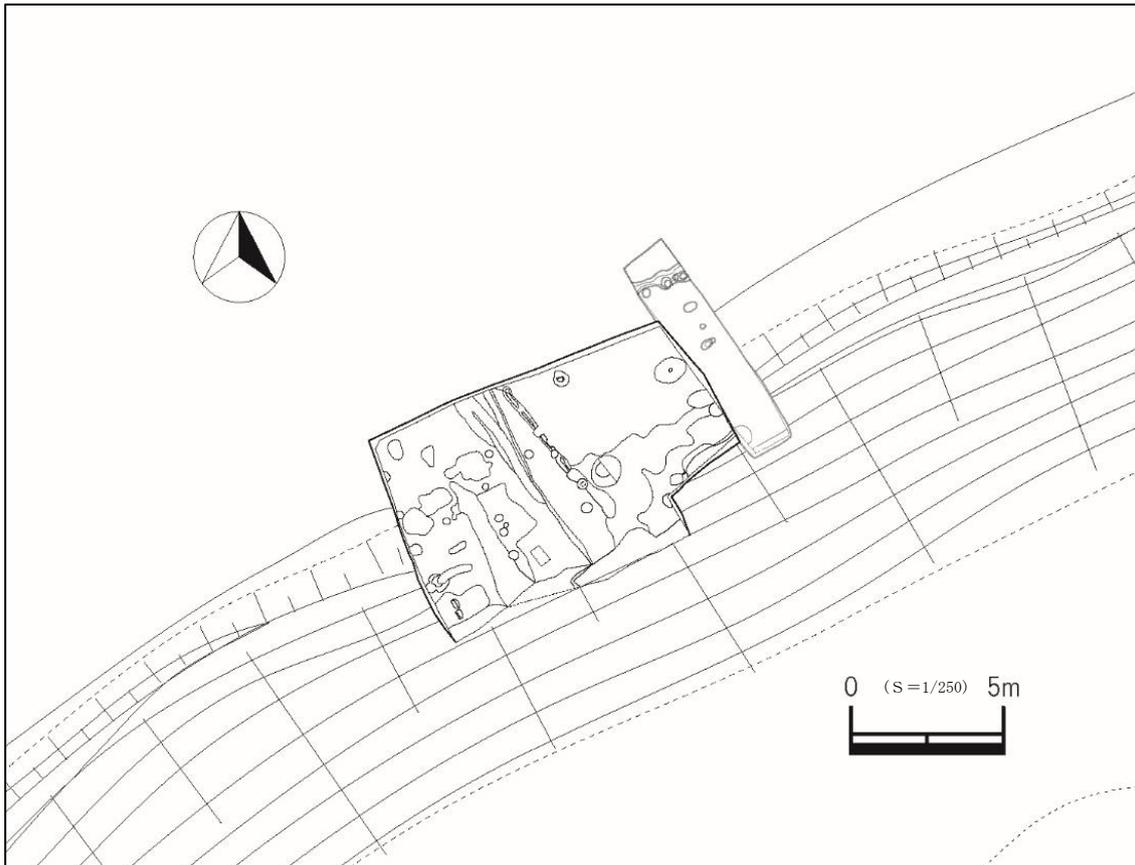


堀(SD43)の検出状況(北から)

・二ノ丸東側土塁

二ノ丸東側土塁周辺の整備工事にかかる実施設計作成にあたり、遺構深度、土塁残存状況を確認するため調査を実施しました。

調査の結果、公有地化以前の建物によって、削平を受けていたため、遺構や土塁の痕跡がありませんでした。



令和4年度二ノ丸東側土塁調査範囲



東土塁調査範囲検出状況（南から）



東土塁調査範囲全景（北から）

令和4年度調査報告（紙上報告）

駒焼場遺跡（第5・6次）

前小路遺跡（第80・81次）

在府小路遺跡（第39次）

駒焼場遺跡（第5・6次）

所在地	二戸市金田一字駒焼場地内
調査原因	個人住宅新築工事
調査期間	第5次：令和4年6月20日～6月22日 第6次：8月19日～9月5日
調査面積	第5次：60.3㎡ 第6次：133.9㎡
主な時代	古代
主な遺構	竪穴住居跡
主な遺物	土師器・須恵器・鉄製品・石製品

①遺跡の説明

駒焼場遺跡は、IGR金田一温泉駅の東側に広がる遺跡で、北東側に馬淵川が北流しており、西側斜面から続く丘陵の先端に位置しています。昭和56年～昭和62年にかけての国道建設に伴い発掘調査が行われ、9世紀末～10世紀中葉の竪穴住居跡が多く確認されました。またその住居を囲むように10世紀後半～11世紀にかけての大溝跡が確認され、防御的意味が濃い環濠集落であることが分かりました。平成25年度には下水道布設工事に伴い発掘調査が行われ、ほぼ同時期の竪穴住居跡が確認され、令和3年度には今回の宅地部分の取出道路建設工事に伴う発掘調査でも、竪穴住居跡が確認されています。

②調査の内容・結果

今回の発掘調査は、令和3年度の試掘調査で竪穴住居跡が複数確認されたことから、住宅建設箇所の表土を掘削したのち検出作業を行いました。

その結果、第6次調査において10世紀中葉の竪穴住居跡1棟が検出されました。規模は3.5×3.0mと小規模で、柱穴は2個を確認しました。北壁にはカマドが東側によって作りつけられており、袖には白色粘土が用いられていました。床面の一部では貼床によりしりがありました。

遺物は、出土量が比較的少ないながら、土師器・須恵器・砥石・鉄製品が出土しました。須恵器と鉄製品は床面の直上で出土しました。須恵器は壺の胴部で頸部が欠損して横倒しになっており、鉄製品は鋤先が完形で出土しました。（鈴木）



調査区全景（第6次）



須恵器・鋤先出土状況

前小路遺跡（第80・81次）

所在地	二戸市石切所字前小路・森合地内
調査原因	土地区画整理事業
調査期間	第80次：令和4年5月26日～8月2日 第81次：9月8日～9月22日
調査面積	第80次：309.7 m ² 第81次：154.5 m ²
主な時代	古代（9世紀末～10世紀初頭）、近世
主な遺構	竪穴住居跡、竪穴状遺構、土坑、溝跡
主な遺物	土師器・須恵器・石製品・金属製品・銭貨・土製品・縄文土器・炭化物

①遺跡の説明

前小路遺跡はJR二戸駅北側に広がる遺跡です。平成13年度以降、区画整理事業によって発掘調査が進められ、主に9世紀末～10世紀初頭の集落跡と考えられており、200棟近い竪穴住居跡や集落を囲む堀跡が確認されています。また遺物として土師器・須恵器・金属製品が出土しており、その中には久慈産と思われる琥珀製品や塩作りで使用された製塩土器もあり、沿岸との交易も想定されます。

近年、縄文時代の遺構や、奈良時代の竪穴住居跡、中近世の竪穴状遺構も出土していることから、長期間にわたり集落として使用されていたと考えられます。

②調査の内容・結果

調査の結果、第80次調査では竪穴住居跡6棟、竪穴状遺構1棟、土坑2基を確認しました。竪穴住居跡は調査区の南側に集中しており、遺構同士が重複していました。7号竪穴住居跡は調査区南端でカマド部分のみが確認されました。カマドの北側には旧カマドがあり、ある時期に住居を拡張していると考えられます。調査区北側は湧水が多く、現況でも暗渠があることから、以前から湧水が集中した沢であったことが分かりました。第81次調査では、時期が不明の溝跡が1条確認されましたが、他の遺構は見つかりませんでした。

遺物は、土師器が竪穴住居跡を中心に出土し、他には須恵器・石製品・金属製品・銭貨・土製品・縄文土器・炭化物を確認しました。（鈴木）



調査区全景（第80次）



重複する竪穴住居跡（第80次）

在府小路遺跡（第39次）

所在地	二戸市福岡字在府小路地内
調査原因	個人住宅新築工事
調査期間	令和4年4月18日～6月17日
調査面積	107.187 m ²
主な時代	中世・近世
主な遺構	土抗
主な遺物	鉄製品、縄文土器

①遺跡の説明

在府小路遺跡は、福岡字在府小路地内に所在し、二ノ丸大手の南側、松ノ丸の東側に位置しています。当遺跡は、福岡城期の侍屋敷跡とされ、これまでの発掘調査によって九戸城に近い西側を中心に道路側溝遺構や敷石状遺構、竪穴状遺構、掘立柱建物跡などが確認されています。令和4年3月15日には、九戸城期の遺構を残す西側の一部が追加指定を受けました。

一方遺跡の東側では、主に縄文時代の遺構、遺物が確認されています。平成26年度の調査では、縄文時代中期末から後期前葉の竪穴住居跡、土器、石器などがまとまって出土しています。

②調査の内容・結果

今年度の調査箇所は、松ノ丸の南東に位置しています。表土を重機で掘削後、人力によって発掘調査を進めました。

表土は約10～20cmと浅く、調査の結果、現代の耕作溝と作業小屋の柱穴が確認され、一部柱が残っていました。また、調査区南東からは、直径約14cm、深さ10cmの浅い掘り込みに河原石がまとまって確認されました。遺構に伴う遺物が確認されていないことから時期・用途については不明です。

出土遺物は縄文土器や陶磁器、鉄釘が耕作溝内から出土しています。（佐藤）



調査区全景（東から）



土抗完掘状況（東から）

語句説明

- 遺構 い こう 竪穴住居など地上に残された生活の痕跡のこと
- 遺物 い ぶつ 土器、石器などの生活道具のこと
- 攪乱 かく らん 遺構などが、新しい時代の耕作などによってかき回されている状態
- 地山 じ やま 自然のままの土、地盤のこと
- 検出 けん しゅつ 土をきれいにして遺構の土を見やすくする作業のこと
- 竪穴住居 たてあなじゆうきょ 縄文時代から古代に見られる地面を掘り窪めて床とした住居のこと
- 竪穴状遺構 たてあなじょういこう 主に中世以降の竪穴式の建物をさし、工房などに使用された
- 掘立柱建物 ほったてぼしらたもの 地面に穴を掘り、礎石を用いずに柱を建てた建物のこと
- 土坑 ど こう 貯蔵などに用いられた様々な形の穴のこと
- 土師器 はじき 古代に使用された素焼きの土器
- 須恵器 すえき 窯を用いて高温で焼かれた硬質の土器
- 版築 はん ちく 土を層状につき固めて建物の基壇や壁、築地塀、城壁などをつくる方法
- 曲輪 くる わ 本丸や二ノ丸など城を構成する区画のこと
- 虎口 こ ぐち 城郭、城館の出入口のこと
- 薬研 や げん 生薬などの薬材をひいて粉末化する道具で、舟形の溝を彫った石臼のこと。
断面の形がV字になっていることから、V字の堀のことを薬研堀と呼称している